

木村 奈美氏



山田 聡美氏



中川 智未氏



高橋 立典氏



英語がもたらした
私のターニングポイント
料理研究家
行正り香さん
p10



TOEIC Bridge® Tests が
米国女子プロラクロスリーグ
トライアウトで採用 p14

特集 「英語活用実態調査」に見る 企業・団体、ビジネスパーソン の英語事情

p4

SOMPOホールディングス株式会社
兼 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 人事部 木村 奈美氏

p5

株式会社資生堂 GIC 統括部 総務管理グループ マネージャー
山田 聡美氏

p6

出光興産株式会社 海外事業部 海外総括課 中川 智未氏

p8

NTTコミュニケーションズ株式会社 カスタマーサービス部
ビジネスカスタマーサポート部門 部門長
高橋 立典氏

「英語活用実態調査」に見る 企業・団体、ビジネスパーソン の英語事情

IIBCは、TOEIC® Programを活用している企業・団体を対象にした英語教育・活用の実態調査と、ビジネスパーソンを対象にした英語に対する意識調査を行い、その結果を「英語活用実態調査【企業・団体/ビジネスパーソン】2019」*としてまとめました。本特集では、調査結果の一部を紹介するとともに、英語教育に積極的に取り組まれている企業と、英語力向上のために日々学習されているビジネスパーソンに伺った、具体的な教育法や学習法などを紹介します。

Part 1 「I.企業・団体における英語の位置づけ」の調査結果

英語教育の施策と効果に隔たりが見られ モチベーションの維持・向上が課題

社員・職員に対して求める英語力は 英語で行われる会議で議論できるレベル

企業・団体を対象とした調査は、2017年1月から2018年8月までの期間に、TOEIC® Programの公開テスト団体一括受験申込、あるいは団体特別受験制度(IP: Institutional Program、以下IPテスト)を利用した企業・団体に対して行いました。

企業・団体の82.6%が「英語」は重要なスキルで、67.0%が今後強化が必要であると考えている中、まずその使用状況を見ていくと、現状では61.0%が「英語は海外との取引がある部署だけで使われる」と回答しています。一方、3年後はどうなるかについての見通しを尋ねたところ、「英語は海外との取引がある部署だけで使われる」と答えた企業・団体は38.8%。この結果から、今後は海外との取り引きがない部署でも英語が使われるようになると、多くの企業・団体が予測していることが分かります。

では企業・団体は、社員・職員がどの水準の英語スキルを身に付けることを目標としているのでしょうか。

最も多かったのは、「英語で行われる会議(テレカンを含む)で議論できる」の19.9%。次いで「取引先/海外支店とメールでやり取りができる」「取引先/海外支店と電話でやり取りができる」が、ともに15.5%でした。

ただし企業・団体が社員・職員に対して求める英語スキルは、海外売上高比率によって異なります。海外売上高比率が20%以上の企業・団体の場合、「通訳なしでの海外出張に一人で行ける」「海外赴任できる」といったより高度な英語スキルも

求めています。一方、1~19%未満の企業・団体では、「取引先/海外支店とメールでやり取りができる」が最多。0%(国内売り上げのみ)の企業・団体では、「簡単な業務連絡などができる」ことも求めています。一口に「今後は英語力が必要になってくる」といっても、求められる内容やレベルは、企業・団体が置かれているビジネス環境により異なっていることが分かります。

実施している英語教育施策と 効果のある施策には隔たりがある

次に企業・団体が実施している英語教育施策とその効果について見ていきましょう。

実施している英語教育施策で最も多かったのは、「研修機関からの講師派遣による社内研修」で51.9%。次いで「通信教育」が44.9%、「eラーニング」が43.6%、「海外への研修派遣」が35.0%となっています(図1参照)。

このうち「海外への研修派遣」については、やはり海外売上高比率によって実施率が異なっています。海外売上高比率が0%の企業・団体に「海外への研修派遣」を実施している割合は13.9%。これに対して、海外売上高比率20%以上の企業・団体が実施している割合は、46.3%に達しています。

では、これらの英語教育施策について、企業・団体はどの程度の効果があると実感しているのでしょうか(図2参照)。

特徴的なのは、「通信教育」と「eラーニング」についてです。この2つに関しては、実施している企業・団体は多いものの、効果については「大きな効果があった」と「一定の効果があった」を合計しても30%程度にとどまっており、必ずしも評価は

図1 実施している英語教育施策（複数回答）

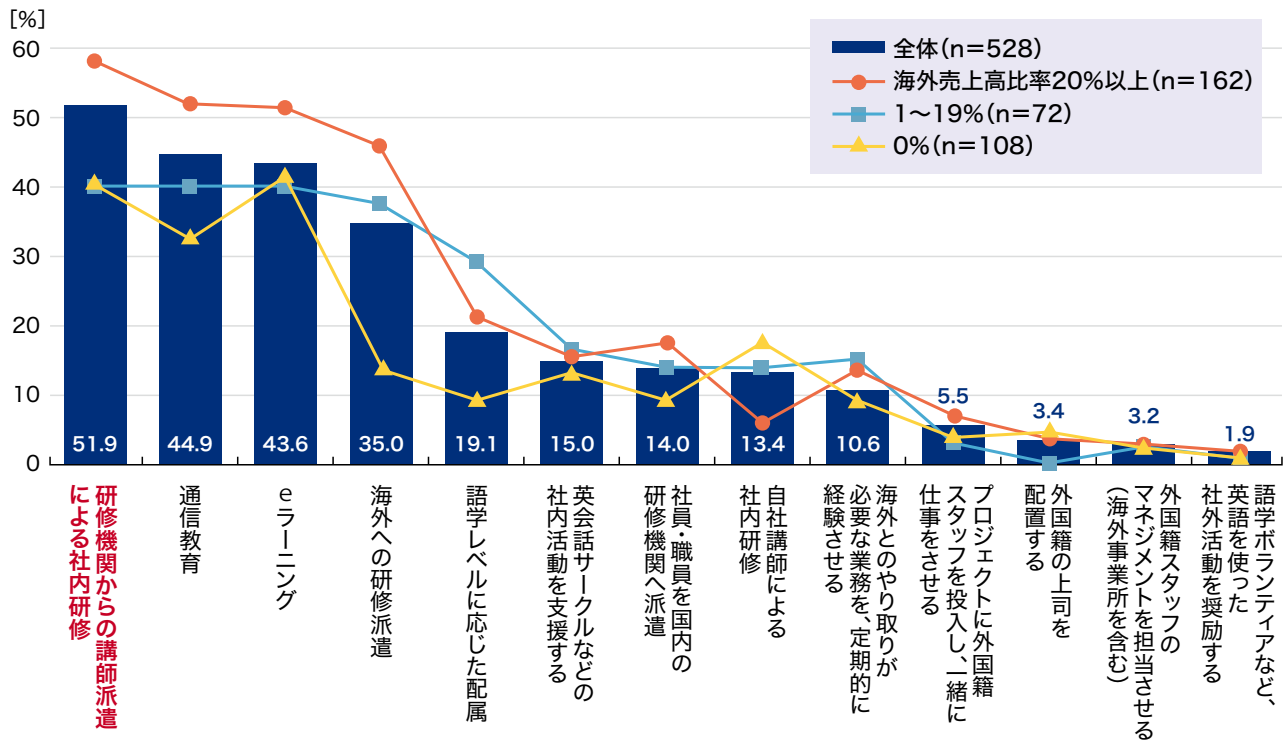
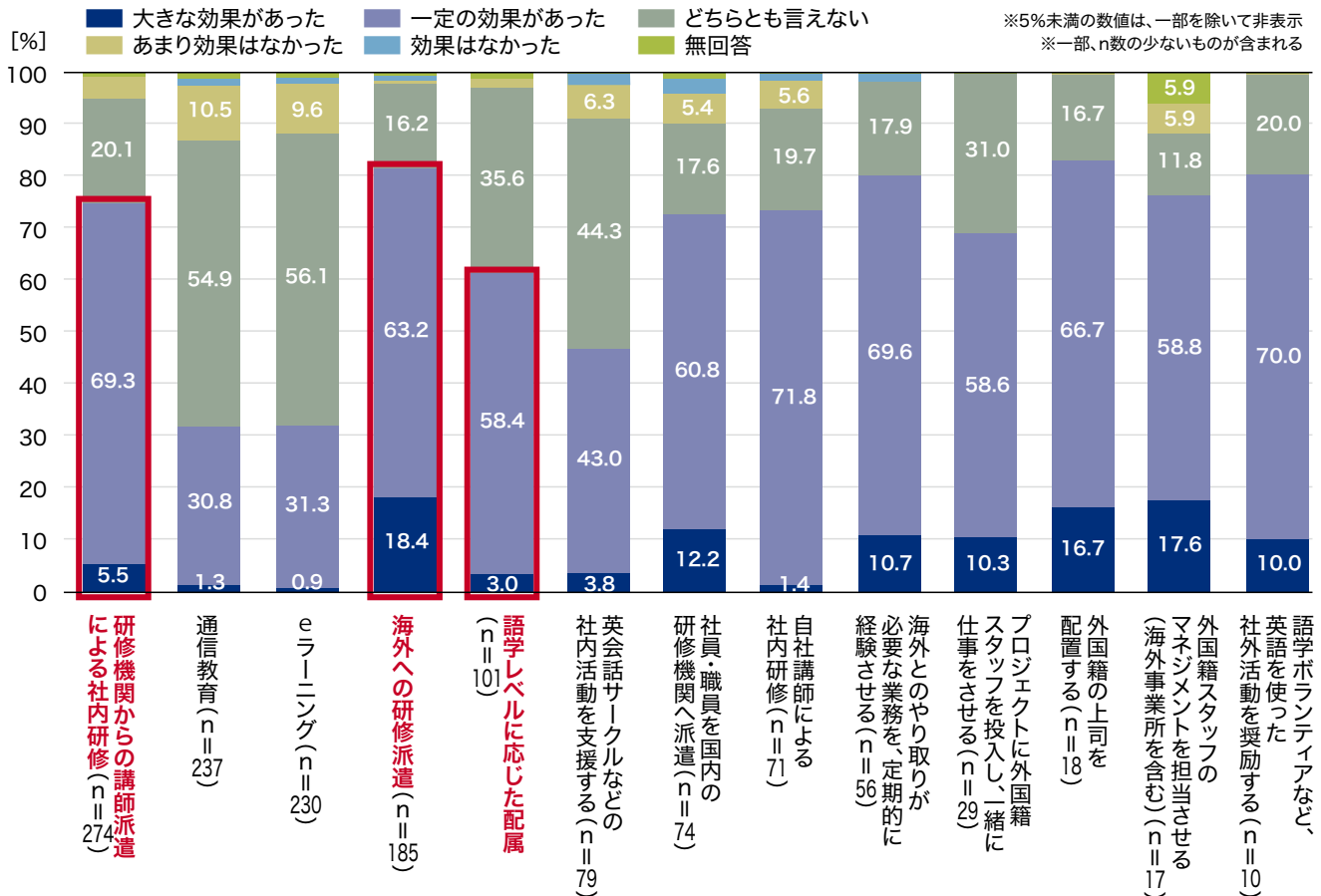


図2 実施した英語施策の効果（該当項目につき1つ）



高くありません。つまり、実施している英語教育施策と、効果があると考えられる英語教育施策の間には、隔たりがあることが分かります。

「通信教育」や「eラーニング」を活用した英語教育の場合、社員・職員の自主学習に委ねる部分が多いため、なかなか企業・団体の狙い通りには英語力を高めることができない面があるのかもしれない。

一方、企業・団体が効果があったと評価しているのは、「海外への研修派遣」(81.6%)や、「研修機関からの講師派遣による社内研修」(74.8%)、「語学レベルに応じた配属」(61.4%)などです。

「海外研修派遣」や「語学レベルに応じた配属」「社内研修」の場合、社員・職員は英語を実際に使わざるを得ない、学ばざるを得ない環境に置かれることになるため、それが大きな効果を得ることにつながっていると推察されます。

モチベーションの維持・向上が 英語教育における最大の課題

今回の調査では、英語教育にまつわる課題についても企業・団体に尋ねています(図3参照)。

最も多くの企業・団体が課題として挙げていたのは「対象者のやる気や積極性を引き出せない、維持できない」で、その割合は66.3%。モチベーションの維持・向上が、英語教育における最大の課題であることが明らかになりました。

また2位は「レベルにばらつきがあり、初級者のボトムアップができていない」(41.5%)、3位は「社員・職員の業務過多のため、研修時間がとれない」(40.2%)となっています。

同じ組織の中でも、社員・職員の英語スキルは多様です。そのためどの層を主要ターゲットに英語教育を行えばいいのか、また英語学習に苦手意識を抱いていると思われる初級者に対して、どのような教育プログラムを行えばボトムアップできるのかについて、苦慮している企業・団体が多いことが見てとれる結果となっています。更に、働き方改革の影響などもあり、研修時間の確保にも苦心していることが分かりました。

今後、ビジネスにおいて英語を使用する場面が増えていくことは、衆目の一致するところだといえます。しかし「どのレベルまで社員・職員の英語力を高めればいいのか」「求める英語力を社員・職員に身に付けさせるために、どのような施策を行うべきか」については、まだ多くの企業・団体において試行錯誤の段階であることが、今回の調査でも浮き彫りになりました。

Interview 1

SOMPOホールディングス株式会社 兼 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 人事部 木村奈実氏

コンテストや海外研修などを実施し、会社全体の英語力アップを図る

顧客のグローバル化が進むことで

国内事業部門でも英語が必要になると予測

東京都新宿区に本社を構えるSOMPOホールディングス株式会社の中核事業会社である、損害保険ジャパン日本興亜株式会社では、IIBCが企業・団体に行った調査の結果と同様に、今後は海外取引がある部署以外でも、英語の使用機会が増加するという見通しを持たれています。同社人事部の木村奈実氏は次のように語ります。

「当社で現在英語が必要とされているのは、経営層や海外との連携が必要な部署が中心です。しかし今後は、国内事業においても顧客のグローバル化が進んでいくと予測しており、それに対応するため、英語が必要になる部署は確実に増えていくと考えています」

そこで同社は、TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC® L&R) のスコアで730点以上とることを、全社員に対して推奨しています。そして社員の英語力を伸ばすために、年4回のIPテストや年1回の英語力レベルアップコンテスト、海外研修などを実施。ただしあくまでも英語学習は自己啓発によるものと考え、海外研修を除けば、学習費用は原則自己負担としています。

社員が助け合いながら英語力を高めていく 英語力レベルアップコンテスト

同社が独自に実施している英語教育施策の中の1つが、英語力レベルアップコンテストです。これは損害保険ジャパン日本興亜の各部署から、1チーム5名以上で参加を募り、チームのTOEIC® L&Rスコアの平均点が6カ月間でどれだけ伸びたかを競い合うというも

のです。毎年120チーム程度、約1,000名が参加して行われています。

「このコンテストのいいところは、高いスコアをとっている社員が、ほかの社員に効果的な学習法を教えるなど、みんなで助け合いながら英語力を高めていけることです。またメンバーになると責任が生じるので、英語の勉強をおろそかにできなくなります。コンテストを実施してから、IPテストの受験者数も増加しています」

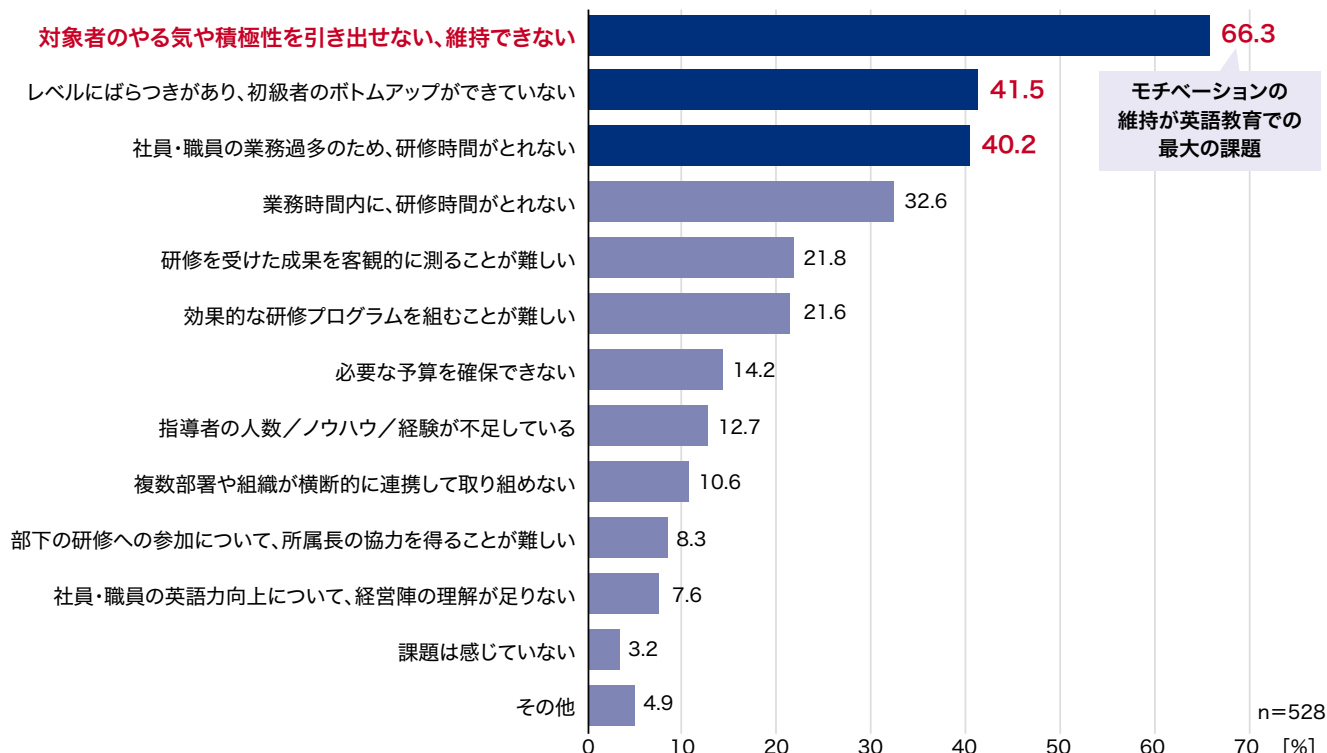
今回、企業・団体に行った調査では、効果的な英語教育施策のあり方をめぐって、各企業・団体が試行錯誤している様子が見えてきました。同社のように「社員同士が英語を学び合える場面を意識的に設ける」ということも、効果的な施策を考える際、1つのヒントになるかもしれません。

一方、同社がグローバルビジネスの第一線で働きたいというキャリアビジョンを描いている社員向けに実施しているのが、公募型の海外研修制度である「SOMPO Global University」です。これは、選抜した人材をシンガポール国立大学ビジネススクールに派遣し、英語で経営学の授業を受け、その後、日本人のいない環境で海外の修羅場経験を積むことで、経営の視点と英語力の両方を養うことを狙いとしました。

「ほかにも当社では、裾野拡大を目的とした1週間程度の短期海外研修制度も設けています。こうした海外研修をきっかけに英語力を高め、キャリアビジョンの実現へとつながる事例を増やしていきたいと思っています。研修を受けた社員がロールモデルとなり、多くの社員が『自分もあんなふうになりたい』と英語学習に対して前向きに取り組むようになることで、会社全体の英語力の底上げを図っていければと考えています」



図3 英語教育にまつわる課題 (複数回答)



Interview 2

株式会社資生堂 GIC 統括部 総務管理グループ マネージャー 山田聡美氏

英語の公用語化を進める中、苦手意識のある社員一人ひとりをケアする

日本語をあまり得意としない外国籍社員が増え
英語でのコミュニケーションが不可欠に

神奈川県横浜市にある株式会社資生堂の「資生堂グローバルイノベーションセンター (以下、GIC)」は、研究開発拠点であり、多くの研究員が在籍しています。研究員にとって英語は、情報収集や論文の執筆、学会での発表などにおいて、不可欠なものとなっています。

「当社は、2018年より本社部門の英語公用語化に取り組んでいますが、近年GICでも、日本語をあまり得意としない外国籍社員が急速に増えてきました。そのためGICでも研究員はもちろんのこと、人事、経理、総務といったスタッフ部門の社員においても、一定の英語力が求められるようになってきています。様々な場面で英語を使用するGICは、英語公用語化の動きがいち早く進んでいる部門といえます」

こう語るの、GIC 統括部総務管理グループマネージャーの山田聡美氏です。山田氏は、GICにおいて社員の英語力向上を図る、推進リーダーの1人です。

同社では現在、全社員にTOEIC® L&Rのスコア730点以上を努力目標としています(ただし管理職は必須目標)。例えば、日本語をあまり理解できない外国籍社員が部下になった場合、上司の英語力が不足していれば、適切な指導や人事評価は困難になります。会社全体がグローバル化していく中、同社の社員にとって英語は、避けては通れないスキルとなりつつあるのです。

英語ができるかどうかより
一生懸命学び、使おうとする姿を評価する

今回、IIBCが行った調査では、多くの企業・団体が、実施している英語教育施策として「研修機関からの講師派遣による社内研修」を挙げていますが、同社も語学学校と連携し、社員向けの講座を開講。ただしGICに関しては、連携している語学学校が事業所の近くにあり

ため、就業中に語学学校に通える制度になっています。クラスはTOEIC® L&Rのスコア帯別に編成。スコアが上がれば上のクラスに移行し、730点をクリアした社員には、次なるステップとしてTOEIC® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC® S&W) 向けの講座や、ディスカッション力を高めるための講座が設けられています。

山田氏はこうした取り組みを実施する上で、「英語に苦手意識を抱いている社員の学習意欲をいかに引き出し、英語力を伸ばしていくかに一番力を注いでいる」と話します。GICでも、ほかの企業・団体が抱えているのと同じ課題に直面しているようです。

「まず重視しているのは、英語が苦手な人を見下さない雰囲気づくりです。英語ができるかできないかではなく、一生懸命英語を学び、使おうとしている人を評価し、応援していこうという雰囲気の醸成に注力しています」

もう1つ山田氏が心がけているのが、社員一人ひとりに対する言葉かけです。山田氏は、スコアが伸び悩んでいる社員に「勉強する時間はとれている？」と声をかけています。すると社員は、「リーダーが見守ってくれている」と感じ、挫折せずに英語学習に向かうようになるそうです。また、つまずきの原因を探った上で、それを取り除くための特別講座も設けています。社員のモチベーションを高め、組織全体で英語力のボトムアップを図っていくためには、きめ細かいサポートが不可欠なることを、GICの実践例が教えてくれています。



英語を使う実践的な場を求める一方 学習状況は2極化するビジネスパーソン

多くのビジネスパーソンが 仕事で英語を使う機会を求めている

ビジネスパーソンに対する調査は、株式会社日経BPが運営する「日経ビジネスオンライン」登録者のうち、20歳代から50歳代のビジネスパーソンを対象に実施しました。

この調査の中でまず注目したいのは、現在の英語スキルについて尋ねた内容で、「挨拶ができる」が最多の23.8%で、次が「取引先/海外支店とメールでやり取りができる」の17.0%でした。一方、企業・団体に行った調査では、19.9%の企業・団体が「英語で行われる会議（テレカンを含む）で議論できる」英語力を求めています。企業・団体が求める英語のスキルと、ビ

ジネスパーソンが仕事で使用しているスキルとの間には隔たりがあることが分かります。

ではビジネスパーソンは、自身の英語力を向上させていく上で、どんな課題を感じているのでしょうか。最も多かったのは、「仕事で英語を使う機会が少ない」の50.4%でした。多くのビジネスパーソンは「英語を使う機会さえ与えてもらえれば、いや応なしに英語力は伸びていく」と考えているようです。

また、今後利用したい英語教育施策について尋ねてみると、「海外への研修派遣」がトップの34.8%。2位は「eラーニング」(27.0%)で、3位が「研修機関からの講師派遣による社内研修」(23.4%)、4位は「海外とのやり取りが必要な業務を、定期的

Interview 3

出光興産株式会社 海外事業部 海外総括課 中川智未氏

育児休業中に、日常生活を英語漬けにするという独自の学習法を実践

英語力が加わり付加価値が高まれば 仕事の幅も広がるはずだと考えた

中川智未氏は、昭和シェル石油株式会社（現・出光興産株式会社）に入社してすぐ、三重県四日市市の製油所に技術者として配属されました。入社した頃のTOEIC® L&Rのスコアは、750点だったそうです。中川氏は、当時のことをこう振り返ります。

「技術者としては、マニュアルを読む時や、海外の技術者と情報交換をする際、英語を使いました。しかし当時の私の英語力では、言いたいことを相手にうまく伝えることができず、常に受け身の状態でした」

中川氏が本格的に英語学習を始めたのは、第1子を出産して育児休業（以下、育休）をとっていた2018年4月のことです。中川氏は、「技術者としてのバックグラウンドに英語力が加われば、自分の付加価値が高まり、仕事の幅が広がるはずだ」と考えたそうです。また中川氏夫婦は職場結婚でしたが、妊娠中に夫が東京の本社勤務となり、ご自身も本社への異動を実現するため、英語ができることを会社へのアピール材料にしたいという思いもありました。学習の目的が明確になったことと、更には、育休中にビジネスパーソンとしてのキャリア形成が止まり、かつ孤独な状態になるため、英語学習でそれらを克服しようという思いが、モチベーションとなっていったのです。

海外ドラマなどで英語を学び 子どもへの語りかけも全て英語で行う

育休中に中川氏が考え出した英語学習法は、日常生活を英語漬けにするというものです。英語をインプットするためにまず行ったの

は、1日に6回ほどあるお子さんへの授乳時に、インターネットで配信されている海外ドラマを見ること。10分程度でシーンを区切り、まず1回目は字幕なしでドラマを見たそうです。発音がうまく聞き取れず、単語の意味も分からない場面が出てくるため、2回目は日本語字幕付きで見ると意味が分かり、単語やその発音も何となくつかめるようになります。そして3回目は英語字幕付きで見ると、自分がイメージしていた通りの単語であったかどうか、答え合わせをします。更に自分では言えないと思う文章をノートに書き写した上で、最後にもう一度字幕なしで見ると、全て聞き取れることを確認します。ちなみにノートに書いたメモは、入浴時に声に出して読みながら復習したそうです。

また、英語のアウトプットとなるスピーキングの練習のために、お子さんへの語りかけを全て英語で実施。更にオンライン英会話も活用しました。

こうした学習法により、2018年11月に受験したTOEIC® L&Rでは、スコアが925点に。TOEIC® S&WにおいてもSpeakingが180点、Writingでは190点を取得しました。

中川氏の英語学習法は、英語の動画やオンライン英会話を積極的に取り入れているという点で、今回の調査で明らかになった、TOEIC® L&Rの高スコアの方たちが行っている学習スタイルと共通しています。そして育休から復帰した後、希望通り本社への異動を実現。現在勤務する海外事業部に配属されました。

「聞いて理解して、“yes”や“no”のみ判断していたこれまでの英語のコミュニケーションから一歩踏み出し、海外事業部では、自分の言葉で仕事や相手を動かす能動的な英語力を磨いていきたいと思っています」

中川氏は、今後の目標をそう語ってくださいました。



に経験する」(22.1%)となっており、ビジネスパーソンは英語を使わざるを得ない、学ばざるを得ない環境を求めているようです。

前述したように企業・団体に行った調査でも、効果のあった英語教育施策として、「海外への研修派遣」「研修機関からの講師派遣による社内研修」「語学レベルに応じた配属」が上位に挙がっていました。より実践的な英語教育施策は、ビジネスパーソンが求めているだけではなく、実際に効果もあると考えられます。

TOEIC® L&Rのスコアによって 英語の学習スタイルが異なる

ビジネスパーソンに対する調査では、英語学習のスタイルについても尋ねています(図4参照)。

まず1週間のうち英語の学習にあてる時間としては、TOEIC® L&Rのスコアが800点以上の方の平均時間が6時間4分であるのに対し、600点以上800点未満が2時間42分、600点未満が2時間40分となっており、800点を境にはっきりと2極化の傾向が表れています。

では800点以上の方は、どのように週6時間もの学習時間を確保しているのでしょうか。英語を学習する時間帯について尋ねたところ、800点以上の方の場合、「通勤の途中・移動中」に勉強すると答えた割合が、ほかのスコア帯より2倍ほど高い66.7%となっています。つまり隙間時間を上手に活用していることが分かります(図5参照)。

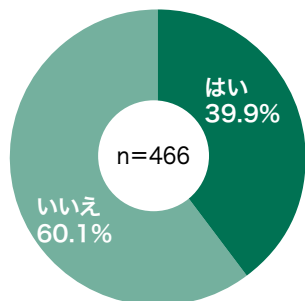
また英語の学習方法については、回答者全体では「参考書、問題集」(42.5%)と「スマホのアプリ」(39.2%)が上位でしたが、800点以上に限ると「英語の映画や動画を見る」と答えた方が、ほかのスコア帯と比べて突出して高い40.0%でした(次ページ図6参照)。

そのほかにも、800点以上の方は、「英語の歌を聞く」「外国人の友人を作る」「Skype英会話」と答えた方の割合がほかのスコア帯より多く、英語学習に「生の英語」を積極的に取り入れていることが明らかになりました。

英語力を更に向上したいと思われるビジネスパーソンにとっては、800点以上の方の英語学習のスタイルは、参考になる部分が多いのではないのでしょうか。

図4 普段の英語の学習状況

Q. 普段、英語を学習していますか？



1週間のうち英語の学習にあてる時間

[%]

	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上 5時間未満	5時間以上 10時間未満	10時間以上	平均時間
全体 (n = 186)	26.3	19.4	16.1	12.4	3.2	15.1	7.5	3時間42分
800点以上 (n = 60)	23.3	15.0	8.3	11.7	3.3	18.3	20.0	6時間4分
600～800点未満 (n = 47)	29.8	25.5	12.8	12.8	0.0	14.9	4.3	2時間42分
600点未満 (n = 30)	20.0	16.7	33.3	13.3	0.0	16.7	0.0	2時間40分

図5 英語を学習する時間帯(複数回答)

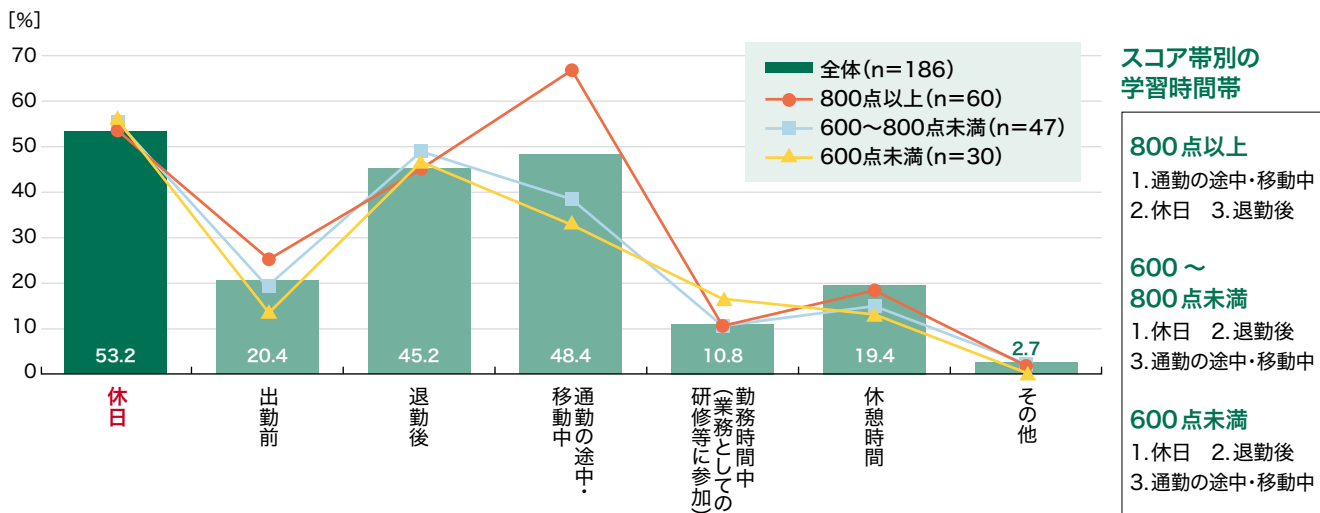
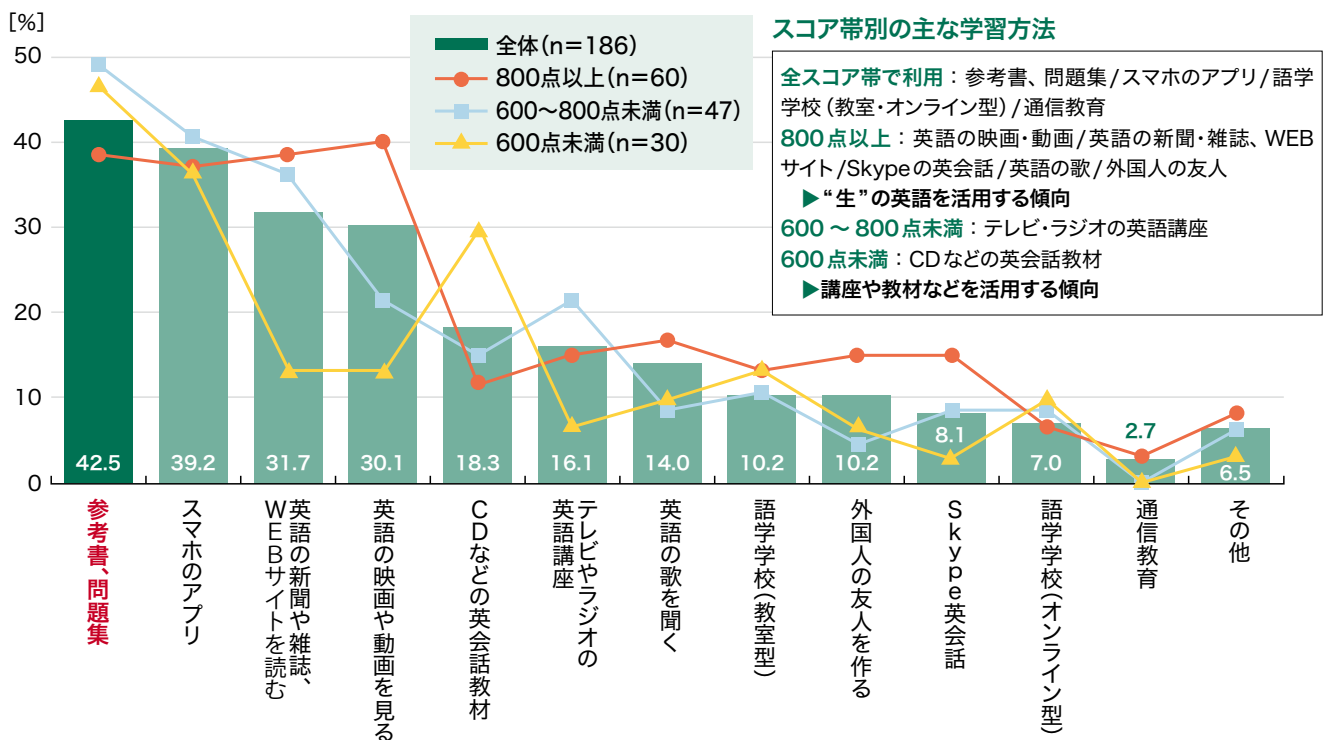


図6 英語の学習方法 (複数回答)



Interview 4

NTTコミュニケーションズ株式会社 カスタマサービス部 ビジネスカスタマサポート部門 部門長 高橋立典氏

通勤やトイレでの時間を活用し、少しでもいいから毎日英語に触れ続ける

2カ月間の短期留学がきっかけで英語学習に対する意識が変わった

高橋立典氏はNTTグループの会社で、IT関連のサービス開発部門の仕事に、長年携わられてきました。ITに関する最新情報を収集するためには英語が不可欠で、以前から英語に接する機会は多かったそうです。しかし、必要となるのは英語の読解力だけであったため、スピーキングなどの英語学習には、本気で取り組んでいなかったと高橋氏は言います。

そのような高橋氏の意識が変わったきっかけは、2016年に約2カ月間の短期留学コース「Stanford Executive Program 2016」に、会社から声をかけられ参加したことでした。

「このプログラムには、37カ国から約160人が参加していました。印象的だったのは、授業中の議論がとにかく活発で、ネイティブスピーカーではない方も積極的に発言していたことです。そのような中、私も含めた一部の日本人は、英語力が不足していて、自分の考えを思うように伝えることができずにいたのです。『このままではまずい』という危機感が、私を英語学習に向かわせました」

また、以前の職場では、短期間でも留学をすると「英語ができる人」と見なされるようになり、留学後は年に1、2回程度アメリカに出張し、現地のIT企業とミーティングを行う機会を得ることができたそうです。「周囲の期待に応えるためにも、英語を学び続ける必然性が高まっていきました」と高橋氏は振り返ります。

通勤時間のポッドキャストや

トイレでの英作文など隙間時間を上手に活用

高橋氏は、効果的な英語学習法について、「毎日少しでも英語に触れ続けることが何より大事」と言います。そのため飲み会や残業で遅くなった夜でも、1日最低30分はオンライン英会話に取り組むことを自らに課しました。

また片道1時間半の通勤時間には、ポッドキャストでBBCニュースを聴くようにしました。更に、トイレに英作文の問題集を置いておき、入る度に毎回10個の英作文をつくり、音読したそうです。今回の調査では、TOEIC® L&Rの高スコアの方たちが、隙間時間を上手に活用することで学習時間を確保していることが分かりましたが、高橋氏の場合も同じことが当てはまります。

高橋氏は留学中に、「とにかく話せなかった」という経験をしたこともあり、留学後は特にスピーキング力の向上に注力。その中でも特徴的なのは、AIアシスタントの「Alexa」を使った学習法です。「Alexa」を英語モードにして英語で話しかけても、発音が悪いと反応しないそうです。「特にLとRの発音をきちんと使い分けられているかをチェックしたい時に便利です」と高橋氏は話します。

また、自身のスピーキング力を把握するための手段として、TOEIC® S&Wを受験。1回目の受験では、Speakingが160点、Writingが160点でしたが、2回目には、Speakingが170点、Writingも170点と、スコアがアップしました。

「今後は単なるスピーキングだけでなく、身振り手振りも含めた表現力を磨いていきたいと考えています。日本にいたとこうした表現力はなかなか身に付かないので、もっと海外に向き、現地の人たちと話す機会を増やしていかなくてはいいですね」と語る高橋氏の英語学習に対する意欲は、ますます高まっているようでした。



Part 3 「Ⅲ.企業・団体におけるTOEIC® Programの活用」の調査結果

「企業・団体におけるTOEIC® Programの活用」の主な調査結果を紹介します。

TOEIC® Listening & Reading Test

図7 採用理由 (複数回答)

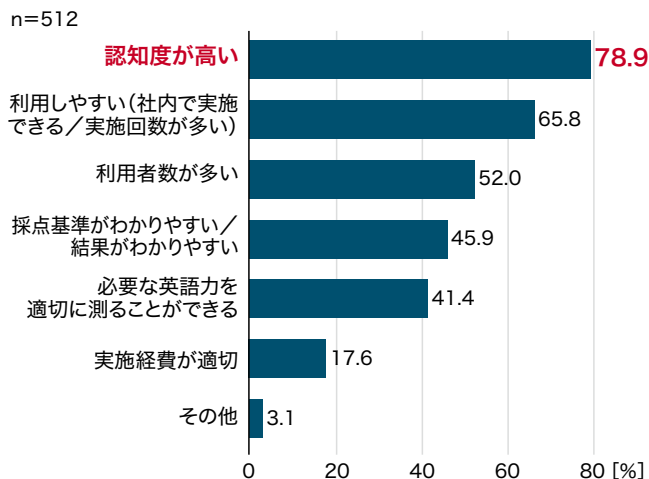


図8 結果の利用用途 (複数回答)

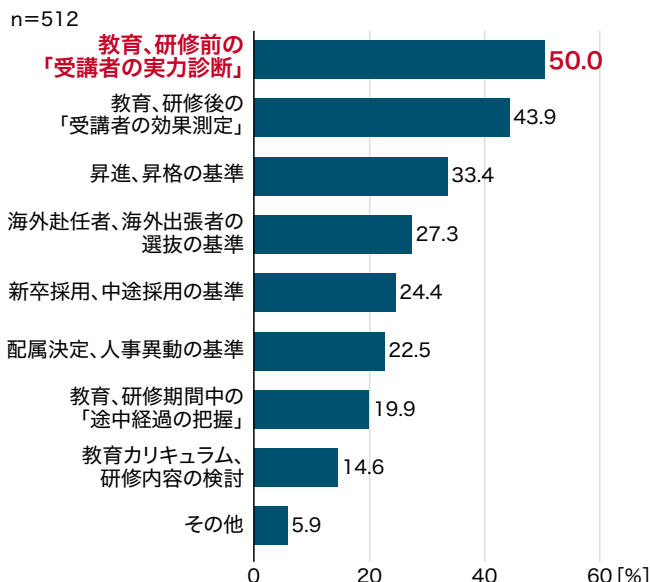


図9 従業員数別 IP テスト年間実施回数

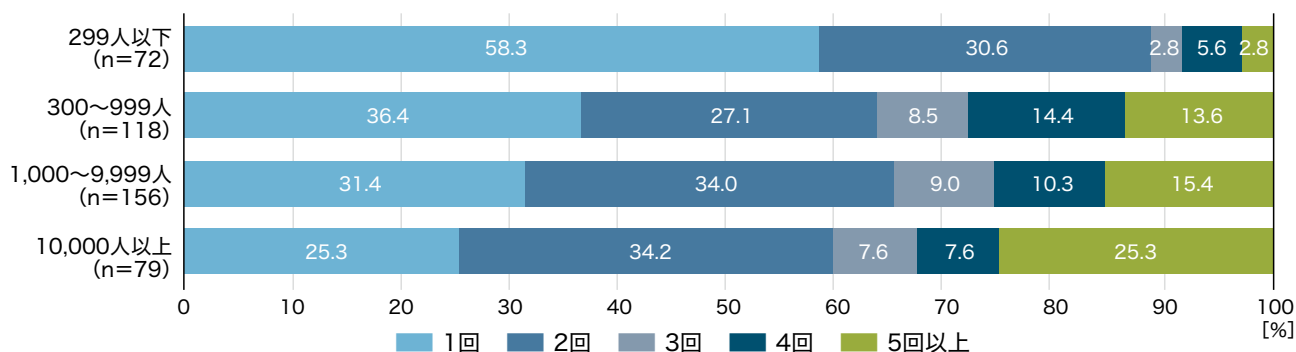


図10 海外出張・赴任者選抜

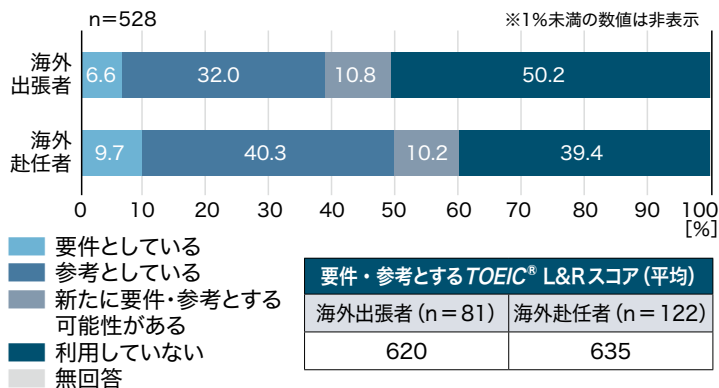


図11 社員・職員に期待するTOEIC® Programの平均スコア

	新入社員	中途社員	技術部門	営業部門	海外部門
TOEIC L&R	535	560	560	575	690
TOEIC Speaking Test	110	110	120	120	140
TOEIC Writing Test	110	110	130	120	140

「英語活用実態調査【企業・団体/ビジネスパーソン】2019」は、右のQRコードよりご覧いただくことができます。



学校についても調査を行っており、「英語活用実態調査【学校(大学・高等学校ほか)】2019」としてまとめています。右のQRコードよりご覧いただくことができます。





英語がもたらした私のターニングポイント 第8回

私の世界を広げてくれた 英語と料理

料理研究者としてNHKワールドに出演し、
世界に向けて日本料理のプロモートにも取り組む行正り香さん。
学校の勉強が苦手だった高校時代に、父親の言葉がきっかけでアメリカに留学。
留学で英語を学びたいという学習欲が芽生え、
学ぶことはエンターテインメントだと感じるまでになったそうです。

●料理研究者 行正り香さん

Profile

ゆきまさ・りか
福岡県生まれ。高校在学中にアメリカへ留学し、カリフォルニア大学バークレー校を卒業。帰国後、広告代理店に就職しCMプロデューサーとして活躍。2007年退社。『だれか来る日のメニュー』(文化出版局)、『19時から作るごはん』『行正り香のインテリア 心地よく暮らすためのルールとアイデア』(ともに講談社)、『ピリからはじめる英語術—英語は声を出して学ぼう』(新泉社)など著書多数。4技能英語を学ぶカラオケEnglishという音読アプリを開発。NHKワールドでは「Dining with the Chef」のホストを務め、世界に向けて日本料理をプロモートしている。

●英語力ゼロからのスタート アメリカ留学で学習欲に火が付いた

学校の勉強が苦手な、高校3年になった時には下から数えたほうが早い成績でした。それで、卒業したら働こうと考えたのですが、特にやりたいことも、得意なこともありません。他のものよりは少しでもできそうなものを探して、何とか思いついたのが英語でした。文法や読み書きは全くだめだけれど、大好きな洋楽をまねて歌っていたので、先生に「発音だけはいい」とよく褒められていたのです。父から「なんでもがんばって、自分の半径5km以内にいる人たちの中で一番になれば仕事にできるよ」と励まされ、近所の子どもたちに英語を教える先生になると決心しました。そのためには卒業までに英語を身に付

けなければいけないと、大学に行かない代わりに留学費用を両親に出してもらって、英語力ゼロでアメリカの高校に留学しました。

当然、最初は周りの英語が一言も分かりません。でもしばらく暮らすうちに、会話にパターンがあると気付いたのです。朝、学校で友達に会うと、「ウワツアップ (What's up?)」、「ナツマチ (Not much.)」とあいさつする。レストランでは必ず「ワウジューライク (What would you like?)」と聞かれる。そうしたフレーズを音のかたまりとしてひたすら覚えることで、9カ月の留学期間が終わる頃には、日常会話くらいは話せるようになっていました。

そうすると、もっと英語を学びたいと欲が出てきます。で

も、我が家には留学を続けられる経済的ゆとりがありません。するとホストファミリーが、「誰でも学べる短大があるから、うちで働きながら勉強を続けてはどうか」と提案してくれたのです。私の仕事は、週5日ホストファミリーの食事をつくること。初めから料理が得意だったわけではないのですが、みんながおいしいと喜んでくれるのがうれしくて、日本から持参した母のレシピノートを頼りに工夫を重ね、2年間食事をつくり続けました。この時の経験が、今の料理研究家としてのキャリアにつながっています。

● 海外との仕事はシンプルな英語でいい 大事なのは交渉力

短大では読み書きが重要になるため、私は苦手だった文法から学びなおさなければいけません。といっても、日本のような難しい文法の講義は一切なし。文法の授業は、1つの文型の例文を何度も声に出して読み、次にその文型を使って自分で簡単な例文をつくる、その繰り返しでした。この学習法が私にはとても合っていて、数カ月で急速に英語の力が付き、学校の成績もどんどん上がりました。そして先生方の勧めもあってカリフォルニア大学バークレー校に編入し、無事卒業することができたのです。日本の高校でほとんどピリの成績だった勉強嫌いの私が、気付けば学ぶことに夢中になっていました。

大学院へ進みたい気持ちもありましたが、さすがに働かなければいけないと思い、帰国して広告代理店に入社し、コピーライター、CMプランナーを経て、海外向けCMの制作担当になりました。予算も人員も限られた中で、1人で海外へ行ってプランニング



夢中になって学んだ、カリフォルニア大学バークレー校政治学部卒業式



広告代理店に勤めていた頃、カナダ向けのテレビCMの監督と打ち合わせをする行正さん

し、プロデュースをして、納品まで全て自分でやらなければいけないタフな現場でしたが、ビジネスのノウハウはここで学びました。

海外の人と仕事をする上で気付いたのは、英語力よりも交渉力が重要だということ。例えばメールでも、日本人は相手がどう思うか気にして回りくどい表現をしがちですが、彼らはごくシンプルに用件だけを書いてきます。中学生レベルの簡単な英語でも十分通用するのです。その代わり、海外の人たちは要求をストレートにぶつけてくるので、それにひるまず自分が決めた落としどころに話をもっていく強い意志と交渉力がないと、いくら英語が上手でも対等な関係は築けないと思います。

一方、私は会社で働きながら、友人や知人を食事に招いたり、レシピを教えたりして料理を楽しんでいました。それがいつの間にか口コミで広がって、料理の本を出すことになり、料理研究家としての仕事が始まりました。私のレシピは、誰がつくってもおいしくできる簡単な和食や、おうちでパーティがしたくなるような料理が中心。留学時代、ホストファミリーや大学の寮でみんなに料理をふるまって喜ばれた経験がベースになっています。

英語が話せるということで、世界各国で放送されているNHKワールドTVの料理番組にもレギュラー出演させていただき、今春には英語の和食レシピ本も出版する予定です。

● 学ぶことは最高のエンターテインメント 英語が話せれば情報量は何十倍にも

英語と料理は、私を支える大切な2つの土台です。英語と料理を身に付けたことによって、私の人生の箱はぐんと大きくなり、たくさんのお会いにも恵まれました。どちらも私はテストの点数のために丸暗記したり、いやいや学んだりしたものではありません。例えば英語の音を聞いてまねをする。そんな簡単なことから始めて、それができると楽しくて、今度は英語で話したくなり、さらに読み書きも学びたくなっていったのです。料理もうまくできたらうれしいし、誰かが喜んでくれたらもっとがんばろうと工夫する。楽しいから自分でどんどん学びたくなるというスパイラルが大切だと思います。

わが家の次女は、「あいうえお」を教えても、なかなかひらがなが読めませんでした。でも、ある日突然、「の」の字だけ読めるようになって、そこから急速に文字を覚えていきました。楽しいと思えること、興味を持てることに出会えば、あとはセルフラーニングで自然と伸びていくのです。そんな体験から私は教育に興味を持ち、子ども向け学習コンテンツを提供する会社を立ち上げました。

学ぶことは最高のエンターテインメントです。知らないことを知れば、世界が広がります。特に今の時代、ITの進化で世界が身近になり、英語が分かれば入ってくる情報量が何十倍にもなります。子どもたちにも、楽しみながら英語を学んで、身に付けてほしいですし、私自身これからも、もっともっと学び続けていきたいと思っています。

インバウンド対応の最前線で活用される 英語でおもてなしをするための教科書

さらなる増加が見込まれる

訪日外国人旅行者の受け入れ態勢を強化

旅館やホテルなどでは、年々増加している訪日外国人旅行者に対し、日本ならではのおもてなしができるよう、多くの事業者が日々研鑽しています。そのような中、全国約1万6,000軒の旅館・ホテルの組合組織である「全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会（以下、全旅連）」の青年部では、流通・インバウンド委員会を設置。訪日外国人旅行者の受け入れ態勢の整備や、海外に向けた旅館ブランドの発信などを行っています。

同委員会の前身にあたるインバウンド戦略委員会では、2013年に、全国の旅館を対象にアンケートを実施。「外国人宿泊者に英語の案内は通じたか」という質問に、「通じた」と答えたのは、4割ほどにとどまりました。ほかの回答でも、言語の不安が大きいことが分かり、不安を解消し、自信をもって接客するための態勢強化が進められることになりました。

旅館目線で必要なことを厳選した

英語対応のマニュアルを製作

その1つとして、2016年に製作されたのが『旅館の、旅館による、旅館のための インバウンドの教科書』です。

「旅館目線で内容を厳選し、現場ですぐに使える英語のマニュアルとしてつくりました。簡単な単語や文章を用いて、『英語が苦手なスタッフでもコミュニケーションを取ることができるようにする』のがコンセプトです。また、外国のお客様の受け入れでは、文化の違いを認識する必要があるため、教科書の冒頭で各国の文化を紹介しました」と語るのは、同委員会副委員長（元委員長）で、製作を手掛けた倉沢晴之介氏です。

ほかにも、同書には宿泊予約への返信メールや、館内での過ごし方、食事の案内などの英文フォーマットも掲載されていて、旅館だけでなくホテルでも活用することができます。倉沢氏は、「流ちょうな英語での会話だけがおもてなしではなく、お客様が困らないよう案内の充実を図ることも重要だ」と言います。

実際に同書を活用する、「信州別所温泉 旅館 上松や」の仲



「信州別所温泉 旅館 上松や」の仲居・小林愛美さんは、『インバウンドの教科書』を活用することで英語への苦手意識が和らいだ

居・小林愛美さんは、「それまでは翻訳サイトを使っていましたが、『インバウンドの教科書』は手元ですぐ確認ができ、また、旅館特有の、従業員がよく使うフレーズが載っているので、すぐに外国のお客様とのコミュニケーションに生かすことができます」と言います。小林さんは英語をもっと話せるようになりたいと思い、自主的に学習を始めたそうです。

『インバウンドの教科書』の配布後には、営業に関する内容も入れてほしいなどの要望が高まり、2019年に中級編を製作して配布しました。外国人が多く滞在する旅館・ホテルの事例なども掲載され、さらに旅館の訪日外国人旅行者受け入れを推し進める内容になっています。

また、同委員会では、外国人旅行者の多くが宿泊予約に使う外資系のオンライン・トラベル・エージェント（OTA）との調整も進めています。同委員会委員長の芝野尚氏は、「外資系OTAからの予約では、旅館と外国のお客様の間に複数の企業が入ることもあり、事前情報と、旅館が提供するものが違うというトラブルが生じることがあります。これを避けるため、OTAと交渉し、予約手続きの簡素化を図っています」と語ります。

英語によるおもてなしというソフト面、そして宿泊予約システムなどのハード面の双方から、訪日外国人旅行者の受け入れをサポートする、同委員会の取り組みはこれからも続いていきます。



同書は全国の旅館・ホテルに向けて各1万5,000部ほど配布し、青年部のWebサイトでも公開している



全旅連青年部 流通・インバウンド委員会委員長 芝野尚氏（左）、同委員会副委員長 倉沢晴之介氏（右）



■ 第11回 IIBC エッセイコンテスト表彰式を開催

将来に向け希望あふれる高校生を応援



自分の体験から得た異文化理解の大切さを英語で表現していただくため、IIBCは高校生を対象にした「IIBCエッセイコンテスト」を、毎年開催しています。2019年に11回目を迎えた同コンテストでは、これまでと同様に「私を変えた身近な異文化体験」をテーマにした英語のエッセイを募集。本選に138校・205作品、奨励賞には37校・1,545作品と、多数ご応募いただきました。本選への応募数は過去最多となり、その中から8名の受賞者を決定。2019年11月9日(土)、ホテルニューオータニ(東京都千代田区)にて表彰式を開催し、受賞者のほか、審査員、受賞者を指導された先生、保護者の皆様など大勢の方にお集まりいただきました。

例年の作品では、海外に行った時の体験といった内容が主流でしたが、今回はそれにプラスして、日本の中での異文化や家族の中での異文化といった、身近な生活での異文化体験について書かれた作品が多く見られました。その中で、本選の最優秀

賞に輝いたのが、聴覚に障がいがある両親との生活の中で、「聴く」ことの重要性を学んだことについて書かれた、岩手県立不來方高等学校 2年の竹内彩翔さんの作品です。竹内さんは「受賞によって自分の生き方が認められた気がしました。個人レベルでも国際レベルでも、『人の気持ちを聴くこと』を優先すれば、相互理解につながると考えており、今後は、英語に関わりながら、障がいのある方たちの助けになる仕事をしていきたいと思っています」と将来の夢を語ってくれました。

そのほかにも「今回の受賞は、教師になって社会に貢献したいという夢を、後押ししてくれるものだと思います」「これからも色々な人と出会い、異文化に触れ、世界で活躍できる人間になりたいと考えています」といった声が挙がるなど、受賞者たちは、将来への希望に満ちあふれていました。

これからもIIBCはコンテストを通じて、未来ある高校生を応援してまいります。

受賞者

👑 最優秀賞/日米協会会長賞

竹内 彩翔さん
岩手県立不來方高等学校 2年
タイトル: Listening to Silence

👑 優秀賞/日米協会会長賞

永富 亜結美さん
広尾学園高等学校 1年
タイトル: What Oba-Chan Taught Me

👑 優良賞/日米協会会長賞

森 えい実さん
不二聖心女子学院高等学校 3年
タイトル: How an Overseas Experience Opened My Eyes

👑 特別賞

楡井 理泉さん
吉祥女子高等学校 1年
タイトル: From Coexistence to Better Communication

神長 美海さん
クラーク記念国際高等学校
梅田キャンパス 2年
タイトル: More than just a problem child

大村 梨紗さん
浜松日体高等学校 1年
タイトル: Outsider

河本 凜子さん
ユナイテッド・ワールド・カレッジ
ISAK ジャパン 3年
タイトル: Instant Ramen

若林 加奈子さん
クラーク記念国際高等学校
京都キャンパス 3年
タイトル: Is Nature a Museum?

👑 奨励賞

37校、1,545名

※本選: 1校2名(2作品)までの応募が可能。受賞者8名を決定

※奨励賞: 1校20名(20作品)以上の応募校に贈られる賞

※日米協会会長賞: 一般社団法人 日米協会より本選応募作品の中から、国際理解や国際交流の観点で優れた3名(3作品)に贈られる賞



最優秀賞に輝いた竹内彩翔さん(写真上)。
歓談する受賞者たち(写真下)

■ TOEIC Bridge® Tests が米国女子プロラクロスリーグトライアウトで採用

英語の重要性がますます高まるラクロス



米国女子プロラクロスリーグトライアウトの一環として行われた試合

オリンピックの正式種目入りの可能性があるラクロス。選手たちにとっても、英語の重要性がますます高まっています。

そのような中、米国女子プロラクロスリーグWomen's Professional Lacrosse League (以下、WPLL) のアジア地域トライアウトにおいて、TOEIC Bridge® Testsが採用され、IIBC協力のもとテストが行われました。このトライアウトは、日本人選手が世界のラクロスを知り、グローバルな舞台で戦える環境をつくることを目指す、WORLD CROSSE 2019※実行委員会が実施するもので、18年からWPLLと協議の上、開催しています。18年には、WPLL初の日本人選手を輩出しました。

同実行委員会は、日本のラクロス選手が世界で活躍するためには、「競技力」「チャレンジする機会」に加えて、外国人のコーチや選手とスムーズにコミュニケーションを取るための「語学力」が欠かせないと考えており、今回、TOEIC Bridge® Testsで選手の英語の4技能(聞く、読む、話す、書く)を測定。トライアウトの選抜に加味するとともに、今後の語学力強化にも活用する予定です。

※世界のトップ選手を日本に招き、試合を行う大会



日本人選手がTOEIC Bridge® Testsを受験する様子

海外でのプレイ経験を持つ 現役選手が語る これから必要な語学力とは

ラクロス選手 池川 健さん



1987年生まれ。ラクロス社会人チームStealers所属。成蹊大学在学中にラクロスを始め、2010年、14年、18年のワールドカップに日本代表として出場。12年～13年に、オーストラリアに留学。Caulfield Lacrosse Clubに所属し、現地の選手たちとプレイした。

トライアウトの事前説明会で、参加する選手たちに向けて、私のオーストラリア留学の体験談や、英語を身に付けて得られたこと、英語の重要性などをお話しました。

私自身、初めてワールドカップに出場した時は、英語が全く話せませんでした。世界のトップ選手たちに練習法など聞きたいことがたくさんあったのですが、それを聞くことができず、悔しい思いをしました。これを機に、オーストラリア留学を決意。留学先では、語学学校に通いながら、地元チームCaulfield Lacrosse Clubでプレイしました。同チームには、ワールドカップに出場するオーストラリア人選手が2名所属。彼らは、リーダーシップがあり、試合などでうまくいかないことがあってもすごく冷静でした。ある時、2人にその理由を聞いてみると、彼らの答えは「自分がいいプレイをする時って怒ってないでしょ」というものでした。英語を身に付けるだけでなく、トップ選手のマインドに触れられたことは、大きな糧となりました。

また、ラクロスの試合では、審判を巻き込んで、判定について交渉するという駆け引きも重要です。英語が話せない場合には、通訳が入るものの、自分の言葉で伝えることができません。そういう観点からも英語を身に付けることは大切なのです。

そして、語学力に加えて必要なのが、自分の伝えたいことを明確に持つことです。これから海外に行く選手たちにも、英語を身に付け、世界のトップ選手たちとコミュニケーションを取ることで、いい刺激を受けてほしいと思っています。

アジアの高校生が集まり、英語での模擬議会議を実施

IIBCは、世界へと視野を広げようとする若い学生たちに向けたサポートを積極的に行っています。その一環として、1月11日～13日に東京大学英語ディベート部とハーバード大学の学生団体が共同で開催した、約500名のアジアの高校生が一堂に会し英語で模擬議会議を行う、「Harvard Model Congress Asia」を支援しました。

イベントの趣旨に賛同し 若い学生たちを支援

ハーバード大学の学生団体が、世界的な規模で実施している「Harvard Model Congress」は、世界情勢や現代社会の基礎となる制度を深く理解し、多様な価値観を尊重しながら合意形成する力や英語で話す力などを、世界各国・地域の高校生が身に付けていくことを目的に行われています。

同イベントでは、ハーバード大学の学生が主導し、米国議会からG20（金融世界経済に関する首脳会合）、国連安全保障理事会といった多岐にわたる模擬議会議を実施。高校生の参加者たちはそれぞれの議会議に配属され、法案の立案から交渉、成立までを体験していきます。作成した法案は、他議会議の参加者と混合で行う国際サミットなどの模擬議会議で修正し、最終的な決定を行います。

今回、東京大学駒場地区キャンパスを会場に、東京大学英語ディベート部の部員と、ハーバード大学の学生が共同開催した「Harvard Model Congress Asia」はそのアジア版です。同イベントはこれまで、ソウル・香港・バンコク・シンガポールの4都市で実施されてきましたが、日本での開催は今回が初めて。IIBCはこの度、イベント運営への支援と、部員の方がTOEIC® Speaking Testを受験できる機会を提供しました。

異なる文化を理解し 食事や移動手段など細やかに運営をサポート

今回の支援は、イベントの事務局を務める、東京大学英語ディベート部の小宮山俊太郎さんからの申し出がきっかけとなりました。小宮山さんは、「私は高校生の時、『IIBCエッセイコン



東京大学英語ディベート部の小宮山俊太郎さん

テスト』で賞をいただきました。その際、IIBCは異文化交流などを大切にしていることを知ったのです。今回のイベントはまさしくその趣旨に合っていると考え、支援のお願いをしました。申し出を受け入れてくれる先が少ない中、快諾していただいたことは、とても有り難いと思っています。お力添えがなければ実施



一堂に会したアジアの高校生たち



高校生の参加者たちが、模擬議会議を行っている様子

できなかったかもしれません」と支援に対する思いを語ってくれました。

イベントでは、東京大学英語ディベート部のみなさんが、異文化圏から集まった高校生たちに対して事細かな配慮を行いながら、事務局として食事や移動手段の手配、会場案内などを実施。特に食事に関しては、ハラール対応やベジタリアン対応のものが東京だけでは手配できず、近隣の県にある店にも依頼したそうです。

また、今回の支援の1つであるTOEIC® Speaking Testを受験した小宮山さんは、「テストの場面設定が現実的なビジネスシーンになっており、実践的だと思いました。普段、部活で行っている英語のディベートでは、社会情勢について議論し合うため、日常的なシーンで英語を使用する機会がありません。あと数年で社会人になりますので、ビジネスでも英語を使えるようになるための学習を、今後行っていきたいと考えています」と決意を新たにされていました。

これからもIIBCは、世界へと視野を広げようとする高校生や大学生に向けた支援を続けてまいります。

公開テストスケジュール

TOEIC® Listening & Reading Test



回数	試験日	申込期間 ^{※1}	結果発送予定日
第250回	2020年 5月24日(日)	2020年 3月 4日(水) ~ 2020年 4月 7日(火)	2020年 6月23日(火)
第251回	2020年 6月28日(日)	2020年 4月 8日(水) ~ 2020年 5月19日(火)	2020年 7月28日(火)
第252回	2020年 9月13日(日)	2020年 5月20日(水) ~ 2020年 7月21日(火)	2020年 10月13日(火)
第253回	2020年 10月 4日(日)	2020年 7月22日(水) ~ 2020年 8月11日(火)	2020年 11月 2日(月)
第254回	2020年 10月25日(日)	2020年 8月12日(水) ~ 2020年 9月 8日(火)	2020年 11月24日(火)

TOEIC® Speaking & Writing Tests

TOEIC® Speaking Test



試験日	申込期間 ^{※2}	結果発送予定日
2020年 4月19日(日)	2020年 3月 6日(金) ~ 2020年 4月 3日(金)	2020年 5月19日(火)
2020年 5月17日(日)	2020年 4月 3日(金) ~ 2020年 4月30日(木)	2020年 6月16日(火)
2020年 6月14日(日)	2020年 4月30日(木) ~ 2020年 5月29日(金)	2020年 7月14日(火)
2020年 7月12日(日)	2020年 5月29日(金) ~ 2020年 6月26日(金)	2020年 8月11日(火)
2020年 8月23日(日)	2020年 6月26日(金) ~ 2020年 8月 7日(金)	2020年 9月18日(金)
2020年 9月20日(日)	2020年 8月 7日(金) ~ 2020年 9月 4日(金)	2020年 10月20日(火)
2020年 10月11日(日)	2020年 8月28日(金) ~ 2020年 9月25日(金)	2020年 11月10日(火)

TOEIC Bridge® Listening & Reading Tests



回数	試験日	申込期間 ^{※2}	結果発送予定日
第75回	2020年 6月21日(日)	2020年 2月24日(月) ~ 2020年 5月21日(木)	2020年 7月22日(水)
第76回	2020年 9月 6日(日)	2020年 5月25日(月) ~ 2020年 8月 6日(木)	2020年 10月 9日(金)

TOEIC Bridge® Speaking & Writing Tests



試験日	申込期間 ^{※2}	結果発送予定日
2020年 6月21日(日)	2020年 4月 1日(水) ~ 2020年 6月 5日(金)	2020年 7月22日(水)
2020年 9月27日(日)	2020年 6月 5日(金) ~ 2020年 9月11日(金)	2020年 10月30日(金)

*上記は個人でお申し込みいただく際の申込期間です。団体一括試験申込期間 (TOEIC® Speaking Testを除く) は公式サイトでご確認ください。
 また、公開テストスケジュールは変更されることがございますので、最新の情報は公式サイトでご確認ください。
 (※1) インターネットでの申込期間です。申込開始および締切時間、コンビニ端末申込については公式サイトでご確認ください。
 (※2) インターネットでの申込期間です。申込開始および締切時間は公式サイトでご確認ください。

本誌は公式サイトでもご覧いただけます。

https://www.iibc-global.org/iibc/activity/iibc_newsletter.html

IIBC NEWSLETTER

検索



IIBC 世界は、あなたでつながる。

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication

IIBC公式サイト <https://www.iibc-global.org>

【お問い合わせ】

東京 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル ℡.03-5521-5901
 名古屋事業所 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル ℡.052-220-0282
 大阪事業所 大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル ℡.06-6258-0222

【報道関係お問い合わせ】

広報室 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル ℡.03-3581-4761